連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

夏枯れ相場VS好業績　勝敗の行方は？

前回の「今年はサマーラリー、それとも夏枯れ相場？」と題したコラムの反響が大きかったようだ。ターニングポイントと指摘していた「統計的には8月の9営業日前後が変化日」に該当する12日に日経平均株価は年初来安値を更新。11日もSQ算出を睨んだマイナス方向の動きが観測されていた。「波乱発生」を予期していたコラムを通じて、弊社への問い合わせも増えている。

前回も記したが、8月相場は「参加者不足の需給関係から、一本調子の展開になりやすい」。当面は、「夏枯れ相場」入りを想定して、このまま下向きの意識で臨んでおくのが無難だろう。

ただ、下値抵抗を見せる「原動力」は企業の好業績だ。増額修正も相次ぎ、決算評価が継続しているものも目立っている。重苦しい全体相場に代わって、個別の好業績銘柄が踏ん張っている状況だろう。

しかしながら、国内外の経済指標が「景気の二番底」を意識するかのように、軟化を示し始めた。景気の先行きは消費マインドに強く影響を及ぼし、今後の業績にも波及してくるだろう。また、調整局面に陥りやすい、9、10、11月の季節要因にも気を配らなければならない。これからは「損失回避のスタンス」が重要となるだろう。弊社では個人投資家向けに「リスク回避投資術」を無料提供している。気になる方は直接連絡してもらいたい。